

津久戸

令和元年 8 月 26 日

8, 9 月号 新宿区立津久戸小学校

「オリンピック・パラリンピックまで後 1 年」

校長 牧田 健一

今年は例年になく梅雨明けが遅く、突然の猛暑が訪れました。来年の夏はこの時期にオリンピック・パラリンピックが行われているのかと思うとワクワクしながらも若干の不安を覚える夏休みでした。

さて、オリンピック・パラリンピック開催まで 1 年を切りました。本校では、オリンピック・パラリンピック教育の一環として昨年度から、コーディネーショントレーニングを取り入れ体力向上とより良く、前向きに生きる力の育成を目指しています。脳神経機能科学と行動生理学の考え方を取り入れたのがコーディネーショントレーニングです。人間が様々な動きを獲得する過程に合わせ、それぞれの動きを効果的なトレーニングとして考えられました。人間の体には、限界がありますが、誰にでも様々な運動やスポーツができる能力を持っています。

コーディネーショントレーニングを行うことで、それぞれの児童が自分の持っている、今現れていない隠れた力の発揮が期待できるのです。運動は、身体だけではなく脳（心）に刺激を与えるものです。「できた」という喜びを味わうことで、それが意欲になり、前向きに生きる原動力となり、自ら学ぶ力となると考えています。

そのため、指導する側も大切にしている視点があります。児童の動きを正しい動きに直さないという点です。コーディネーショントレーニングでは、正しい動きではなくても「そこはこうしなさい」というような指導はしません。自分がイメージしている動きをしようとしているかどうかを、常に意識することを大切にしています。この運動は意識すべき場所、感覚はありますが、技能として「できた、できていない」で評価することはしません。意識して取り組んでいるかいないかを評価します。児童が進んで運動していること、真剣に取り組んでいることが最も良い評価となります。同じように学習に取り組む力が付けば、児童に主体性が培われると考えています。

オリンピック・パラリンピック教育の中心は体力向上ではないかと思われがちですが、自らを鍛え、まず、チャレンジするという前向きに生きていく力と、そして共に学ぼう、共に伸びようという「自他共栄」の精神を学ぶことが最大の目的なのです。

学校は、一人ではできない活動がほとんどです。その活動の中で、一人一人が、真剣に全力で活動し、尊敬し合い、認め合い、助け合い、つくり上げていく学習を進めていきたいと考えています。その学習の中で、津久戸の子どもたちに、「共にによりよく生きることを考え、よりよい自分にしていく力」が育成されると確信しています。

夏季施設を終えて

8 月 7 日（水）～ 9 日（金）に夏季施設（女神湖高原学園）がありました。5 年生にとっては心待ちにしていた初めての宿泊行事ということもあり、1 学期から楽しそうに準備を進めてきました。

1 日目。信州立岩・和紙の里に行きました。紙漉きを体験し、うちわを作成しました。絵付けでは難しさ楽しさの両方を感じながら行い、世界に一つしかないうちわを作り上げました。夜のキャンプファイヤーでは、レク係を中心に歌やダンス、ゲームで盛り上がり、炎を囲んで輪になって踊りました。

2 日目。車山ハイキング。心地よい風を感じながら無事全員が登頂。思わず「ヤッホー」と叫びたくなるほどの景色と達成感を感じました。長門牧場では、動物を間近に見てアイスクリームを食べ、ゆったりとした時間が流れていました。夜は室内ナイトハイク。懐中電灯片手に、真っ暗な館内を歩きました。ちょっとした物音にも驚きながら歩いたナイトハイクは忘れられない一番の思い出だと振り返る子が多かったです。

3 日目。浅間山噴火に伴い、行程を変更し、黒曜石ミュージアムに行きました。黒曜石のキーホルダーや骨角器のペンダント、勾玉など世界に一つしかない作品を一生懸命に作りました。おみやげがまた一つ増えて大喜びでした。

豊かな自然の中で 3 日間を友達と共に過ごし、5 年生の絆がさらに深まったと思います。2 学期からも学年全体で活動することがあります。今回の夏季施設の経験を生かし、今後の学校生活を大切に過ごしていってほしいと思います。

今年度の研究について

校内研究は、学校の教育目標の具現化を目指し、教師が共同で取り組む研究活動です。今年度から、新宿区教育委員会教育課題研究校の指定を受け、2年間に渡る研究を始めました。研究主題を「ワクワク・ドキドキ 心を働かせる児童の育成ーカリキュラム・マネジメントの推進と授業改善」として、低・中・高学年分科会にそれぞれ専科教員が加わり、研究を進めています。

カリキュラム・マネジメントとは、学校の教育目標の実現、つまり子ども達がよりよく学び成長していくことを常に中心に据えて、教育活動・経営活動を工夫改善していこうとする考え方です。本校では、教科横断的な教育内容の組織的配列、学校評価の改善、地域の人的・物的資源の活用を3本柱に研究を進めていきます。研究教科を生活科・総合的な学習の時間とし、他教科との関連を図ったり、地域の特色を授業に取り入れたりして、「ワクワク・ドキドキ 心を働かせる児童の育成」を目指します。保護者の皆様、地域の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

8・9月の生活目標

『きまりよい生活をしよう』

- ・学校のきまりを守ろう。
- ・廊下を静かに歩こう。
- ・学習の準備をきちんとしよう。



学校図書館から

本校の蔵書数は、10805冊（7月現在）です。毎年購入・受け入れする本が500冊くらい、除籍する本は250冊くらいです。除籍、受け入る本は、その年によって変わりますが、蔵書数は1万冊以上あります。今回は、学年ごとに人気のある本を紹介します。低学年は絵本が人で、特に『ミッケ!』の貸し出しが多いです。中学年になると、さまざまなジャンルの本が人気です。特に人気なのは、『昆虫世界のサバイバル』です。高学年になると、文学が貸し出し上位を占めています。その中でも、『5分後シリーズ』が大人気です。学年ごとにみると、傾向が分かって面白いですね。

文部科学省は、本を読む習慣、本を通じて物事を調べる習慣を子どもの時期から確立していくことが重要だと示しています。学校教育においても家庭や地域と連携しながら、読書の習慣付けができるように様々な取り組みを毎年行っています。読書月間では、ご家庭のご協力のもと「ファミリー読書」、上級生が下級生に一人一人読み聞かせを行う「全校読み聞かせ集会」などを行っています。去年の全校読み聞かせ集会では、上級生が読み聞かせをしてくれたことで、新たな本と出会うことができたという子どももいました。1学期のファミリー読書では、保護者の方のご協力ありがとうございました。

本校の学校図書館は、地域や保護者、ボランティアの方々によって支えられて、充実した読書活動を行うことができます。皆様に感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。

